

市の人口	
(昭和59年1月1日現在)	
世帯数	50,715世帯 (前月比10世帯増)
人口	160,852人 (前月比182人増)
男	80,104人
女	80,748人

宇治市政だより

1/21
昭和59年
(1984年)
第654号

発行 京都府宇治市
編集 広報課
〒611 京都府宇治市宇治琵琶33番地
電話 (0774)22-3141
●毎月1日・11日・21日発行



火災・救急ともに増える

消防本部の58年統計から

防火で守ろう生命と財産

宇治市消防本部は、このほど昭和五十八年(一月から十二月まで)の火災救急統計をまとめました。昨年、火災は発生件数、損害額とも過去十年間で二番目、救急出動件数は消防署始まって以来という多い数字を記録しました。特に建物火災はその三分の一が十月から十二月に集中して発生。火災原因は放火(疑い含む)、たばこの火の不始末があらわらず上位を占めています。消防本部では、今後いっそう防火の取り組みを強化することにしています。

住宅に大損害

過去10年でワースト2

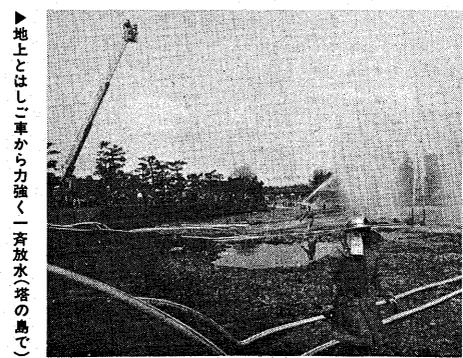
五十八年間に発生したの発生件数は増加しており、火災発生数は五十五件で、五十七年の五十五件は、七年に比ぶると二件の増加と、過去十年間の発生件数の中でなっています。しかし、火災も四十九年の五十九件に及び、

多くなっています。月別の発生件数では、十一月が十一件、他の月を大きく上回り、次に三月の七件、四月、六月、八月の五件づつです。建物火災は三十五件と、過去十年間の損害額の中五十年の二億七千九百九十四万八千円に及ぶものとなりました。住宅、店舗用住宅に於いては、十月、十一月に集中して発生、やはり、日産車などで火を使機が多い時期、火災も多く起つていまして、そうぞう、また、林野火災も二件発生しており、山火などでの火の取り扱いに注意が必要で、

火災による被害は、死者一人、負傷者四人となっており、月別の発生件数では、十一月が十一件、他の月を大きく上回り、次に三月の七件、四月、六月、八月の五件づつです。建物火災は三十五件と、過去十年間の損害額の中五十年の二億七千九百九十四万八千円に及ぶものとなりました。住宅、店舗用住宅に於いては、十月、十一月に集中して発生、やはり、日産車などで火を使機が多い時期、火災も多く起つていまして、そうぞう、また、林野火災も二件発生しており、山火などでの火の取り扱いに注意が必要で、

大切な文化財を守るための防火訓練(白山神社で)

火災は大切な財産を一瞬にして灰に(家族で防火を)



地上とは少し車から力強く一斉放水(塔の島で)

火魔撃退へ決意新たに 消防出初め式

新春恒例、宇治市消防出初め式が一日、府立立公園中の馬一帯で行われました。種々な花火が打ち上げられ、市役所が船本市長が乗ったオープンカーの到着を待つ式典を閉幕。消防本部は、消防員や消防団員、少年消防クラブ員、並立入防火クラブ員約六百人と消防車、救急車を車両十五台が参加しました。森本消防長の訓示で、火災は無の害を新たにした後、少年消防クラブによる鼓笛演奏に続き、宇治川に向かって一斉放水、日差し輝く宇治川の川面にうきうきと描かれました。

大幅増加の救急出動

救急出動件数は、二千七百九十七件で五十七年と比べ二百八十八件増、これは、

文化財防火デー
1月26日

一月二十日は文化財防火デーです。文化財防火デーは、昭和五十四年一月二十日に奈良法隆寺堂の壁面が焼損したと、そして、ちようど火災の多いシーズンに当たっているため、設けられました。宇治市には、平等院鳳凰堂や宇治上神社の国宝などを始め、白山神社様など文化財が数多くあり、先人が築上げた大切な文化財を後世に伝えるの責任が、我々の務めです。市民みんな郷土の文化財を守るために、この

日ごろの備え 確かな防火

これがおおむら二月、三月は一年の中で最も空気が乾燥し風も強く季節です。ちようとして不注意にある火種が思わぬ火災になることがあります。防火の備えは、火種を減らすこと、生命・財産を守るための防火に、ちよう心掛けることです。五十八年火災発生件数、損害額とも過去十年間の火災発生件数、二番目、消防本部では、この記録を更新することのないよう、今後いっそう防火への取り組みを強化してまいります。

